

別記様式（第5条関係）

会 議 録

会議の名称		令和6年度 第4回郷育推進会議
開催日時		令和6年11月18日（月） 18：30～20：00
開催場所		市役所別館2階 大ホール
委員名		（1）出席委員 木本会長、伊藤副会長、東委員、山口委員、宇都宮委員、井上委員、濱田遼委員、原尻委員 （2）欠席委員 柳田委員、濱田真委員
所管課職員職氏名		郷育推進課長 芹野 文彦 郷育推進課郷育係長 田上 智子 郷育推進課郷育係 橋詰 結菜
会 議	議 題 （内 容）	○社会教育とキッカケラボ（地域活動）の連携について～私達にできそうなことを語りましょう～
	公開・非公開の別	☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部公開
	非公開の理由	—
	傍聴者の数	4人
	資料の名称	○第4回郷育推進会議 参考資料（キッカケラボの様子）
会議録の作成方針		☐ 録音テープを使用した全文記録
		☒ 録音テープを使用した要点記録
		☐ 要点記録
		記録内容の確認方法：会長による確認
その他の必要事項		

審議内容 （発言者、発言内容、審議経過、結論等）

○事務局体制変更の報告

1. 開会のことば

2. 協議事項

●会長

前回の会議では、キッカケラボ（以下、ラボ）の方から話を聞き、その後社会教育の現状を話して、ワークショップの形で意見交換をした。各テーブルで意見が活発に出て新たな気づきもたくさんあったので、チャレンジしてみても良かったと思う。今日は委員で話をし、次回はラボの現地見学をしながら会議を行おうと考えている。

ウェルビーイング大賞についてご存知だろうか。社会性が高く、関わる市民の皆さんが充実感や楽しみを持って実践している活動、21のプロジェクトがエントリーしていて、福津イオンに掲示されている。投票受け付け中なので、ぜひ見ていただきたい。

社会教育は、地域活動の実績が非常に長いので、もっと早くキッカケラボとの繋がりがあれば、ウェルビーイング大賞の中に私達の活動を紹介する機会もあったのではと思う。

活動の長い団体もラボに知ってもらい、各活動をさらに発展させるためキッカケラボと連携することで、新しい繋がりができるのではないかな。

今日は、前回ワークショップした感想や、皆さんの活動の中でキッカケラボにこんなことを投げかけたら打開策が見つかるかもしれないなど意見を伺いたい。

●委員

婦人会の活動は毎月1回だが、10月は日赤の先生を招いて、今日はいきいき健康課の先生を招いて講習をした。昨日は、肺がん撲滅デーなので肺がんについて学んだ。キッカケラボと繋がるというのが具体的に想像つかない。

●会長

確かに今の状態ではどこに接点や共通点があるのかが分かりにくいし、絶対繋がらないといけないわけではない。模索するきっかけになればと思う。

●委員

私は婦人会と他のボランティアを行っていて、その話をした。他のボランティアではラボ登録団体のハワイアンに来てもらうなどラボと繋がりがあ

●会長

長く活動をしている婦人会の活動をもっと広く知ってもらえるといいと思う。

●委員

ワークショップでは、竹林が増えて困る人がいる一方で竹が欲しい人がいて両者を繋ぎたいという話が出た。以前、水産高校で竹を上手く活用したことがありそのように繋げられればと思う。私が住む神興地域は竹灯祭りがあり、竹はどこで取るのか尋ねると山で取ると言われた。津屋崎の人たちは竹が欲しいが、上西郷や神興の人たちは竹を切ってほしいとの声があり、両者が上手く繋がればいいなと話した。

●会長

文化協会の竹細工の講座では今、竹が手に入らないという理由で受講者の募集を止めている。竹を処分してほしい人は多いと思うと話したが、竹細工関係者は、もう切りつくしてしまったと言う。竹を切ってほしい人と上手く繋がれば、新たに竹細工の受講者を募集できる。福津市は竹が非常に多く、ラボでも竹のプロジェクトの話が出ている。

●委員

今、福津市内にアンビシャスが7つあると思う。神興と神興東は、各小学校の中の教室を使用しているが、教室が足りず来年度から特別支援教室になる予定と言われた。アンビシャスの活動場所が学校から他の場所に変わると、学校から来る子どもたちや迎えに来る方の安全面を考えないといけない。学校を使わせてもらっているため何とも言えないが、どうにか教室を使えるよう考えてほしい。

●会長

他の地域のアンビシャスの活動場所は？

●事務局

勝浦は、複合施設で公民館と学童も一緒になっている。福間はふくまりんと学校を交互に使用し、宮司はコミセンを使用している。

●委員

宮司地域は、福間小と津屋崎小の児童がどちらにも通うことができ、登録制ではなく誰でも行ける。そのため、親が連れて行けば、おそらく神興からでも受け入れてくれる。

●会長

神興小のアンビシャス広場は、神興小校区だけで他の校区の子どもを受け入れることはないのか。

●委員

神興小に、福間小校区の子が校区外通学しているのでその子は受け入れている。ふくまりんは学校に近く、福間南小は学校内での実施は厳しいため、子どもたちは四角公民館に移動している。また、津屋崎は学校の中だが、曜日によって音楽室、理科室、家庭科室と使える教室を転々としている。津屋崎もいずれ教室が足りなくなるだろう。今、神興・神興東は教室を使っているが、今後学校の教室が使えなくなることもあり得る。

●会長

アンビシャス広場の活動は知っているが、実情は地域によって違うようだ。

●委員

神興アンビシャスは学童と違い、迎えに来てもらえることと、見守り当番に保護者に入ってもらうことが最低条件。そうでないとアンビシャスが17時に終わっても、スタッフはお迎えが来るまで子どもと待つ必要が生じる。他の校区だと受け入れが難しくなると思う。

●会長

実際、福間や福間南の学童は人数が多く、入ることが難しいから送迎してでも子どもの体験活動を望む保護者はいると思う。仕組みがきちんとわかるように見える化できるといいと思う。

今回のウェルビーイング大賞の候補に「KIZUNA ランチ」が入っている。郷づくりでも実施しているが、アンビシャスも関わっているのでは。

●委員

郷づくり運営協議会の子育て部会の、神興小PTAの保護者でKIZUNAランチの実行委員会を作って、行っている。中学生の時からずっと手伝いに来てくれている子が1人いる。

人手の面でも、今後続けていくためには、校区内の光陵高校に依頼して子どもの見守り役をしてくれる人が欲しい。福間東中にはイベントを行う人とご飯を作る人と別々に分けてボランティアを毎回10人前後来てもらっている。

●会長

高校生の方がしっかり見守りや協力もできそう。校区内だったら案内や募集をし、来るか来ないかは生徒たちの判断になるが、この募集から何か繋がる可能性があるといいと思う。

●委員

私のグループでは、福津に来た経緯や自分がどう福津市と関わってきたかという話をした。ラボはハブにはなるが、自分が動かないと繋がりがなかなか見つけにくい。ラボに足を運ぶきっかけがいると思う。竹細工の方は、我が子の幼稚園のお祭りに来てくれて、ざるや竹かごを販売すると即完売していた。竹の材料が入手できないことを知らなかったがそのような人たちの繋がりと、ラボに足を運ぶきっかけがもっと増えていくと、滞りが減り循環していくと思う。私は筑紫野市で働いていたが、悩んだり困っていることをここに行けば誰かと繋いでくれるという場所はなかったので、すごくいい場所だと思って話を聞いていた。

ラボに行けば話を聞いてもらってすっきりするかも、そんな場所としてももう少し認知が広まり、みんなが気軽に活用できるとそれぞれの活動も広まるし竹細工さんも自分のところに材料がくれば、それをもってまた別のところに繋がっていく。1個の線が2つも3つも広がっていくような活動だと思う。ラボを私の周りで知っている人が少ないことが残念。

●会長

郷育カレッジが10年目ぐらいの頃、いろんな人が何かを学びたい、何かをしたいと思うときのハブにカレッジがなれないだろうかと思っていた。郷育カレッジも生涯学習や社会教育そのものがハブになり繋ぎの役目をしたかったが、今のラボみたいに話を聞く人を常駐することは郷育カレッジ運営委員ではできない。場所と人と予算を当時郷育カレッジに充ててもらうことは無理だったが、ラボがそういう場所としてできた。

●委員

人が集まると、福間南小の過大規模校の問題が必ず話題として上がる。人口が増加し子どもが多いのに子ども会は減少している現状で、反比例な状態。早く対応しないと今の児童にとって大変不利益。これから先の人にとっては良いかも知れないが、今学校にいる児童は振り回されているような状態とを感じる。この課題に早く対応し、その不利益をなるべく最小限にしたいのではないかと。子どもも増加しているいい機会に子ども会が復活し地域とつながり、ラボと何かできればと思う。

●会長

人口が増え子どもも増えて大変だが、この状況をうまくいい方向に活かすことも重要。完全に昔の小学校の600人規模に減るのはだいぶ先。児童・生徒数がピークを越えた後はもう問題ないというような話ではないと思う。学校問題がどうなるかは別として、福間南小の現状は変わらないと思う。いろいろな問題が見え隠れする中で、最近通学路の話を聞いたが怖い。そのハードの部分、いろいろな地域活動や子ども会活動などソフトの部分で子どもたちに何か支援できればと思う。

●委員

前回の議事録にもあるが、新しいことを探して行うやり方もあるけれど今あるものを結びつけて一緒にやることでまたさらに相乗効果があると思う。実際に、ラボの登録団体には教育や子どもに対しての思いを持って活動する団体がたくさんある。婦人会やアンビシャスなど皆さんの身近なところから、こどもフェスティバルなど何か一緒に同じ思いを持つ方々で行えたらいい、活躍したい方がラボに来るので繋げられるといいと思う。

●委員

子ども会の現状としては、今、福津市子ども会育成会連合会（以下、市子連）に入っているのは津屋崎と上西郷で、連合会なのに来年度は津屋崎のみになりそう。子ども会は役員の負担が大きく、連合会に入ると更に役員が回ってくる。

今、団体が減り、活動をしていることすら知られてない状況なので今の活動を発信したい。市内に子ども会がいくつあるのかの情報は把握できていないが、今ある子ども会を少しでもつなげていきたい。

自治会に子ども会があっても市子連に入っていないところはある。

●事務局

子ども会があるところ、ないところもある。例えば日蒔野2区はマンションのみの地域で子ども会自体がない。

●会長

自治会の中に昔から子ども会がある所は、その自治会の活動の中で続いていると思う。昔は、子ども会に入ったら自動的に相撲大会とかドッジボール大会などに出る流れだった。今それが途切れている状況。

●事務局

自治会に入る家庭、入らない家庭があり、自治会に入っていない家庭は子どもが子ども会に入れない、ということもある。

●委員

学校としては、やるべきことが決まっているので児童数が変わっても関係ない。子どもの人数は場所の規模にもよる。勝浦小は100人弱の規模で作られていて、教室は児童が最大20人程を想定した教室の作りだが、福間南小は40人で作られており、棚の数から全然違う。全校児童800人を想定して作られた福間小に児童が1600人いると、単純に図書室の本が半分しかないとか、理科を時間割に入れても理科室を使えない、体育館なども含め物理的な困りごとがある。市教育委員会と話をして、理科室が足りないから家庭科室を理科室にして家庭科室は福間中を使うだとか、運動場が使えないので本来1クラスずつする授業を3クラス一緒にやり、そのために先生がもう1人つかないといけないのでうまく工夫し、担任を持たずに体育だけ担う先生に来てもらえるように県に要望し、来てもらっている。実際困ることはあるが、対応の仕方を工夫して市教育委員会も、県教委も理解して力を傾けてくれるので何とかやれている。児童が運動場を毎日使って遊べないから嫌だとか、人が多すぎて誰が誰だかわからないという点はマイナスの部分と思うが、勝浦小の児童には、クラスの子だけではサッカーができないから面白くないなどの声がある。

実際、福津市には特認制度があり、保護者の意図に応じた対応はできる。他の市町村にはない色々な工夫を福津市は行っていると思う。

ただ、目の前にある1600人規模の学校があるだけで課題が多く出てくるのは仕方がない。PTA活動については、今非常に状況が変わってきていて、なぜ全員一律にPTAに入るのかと疑問を持つ保護者が増えてきた。規約上入る必要はなく任意団体なので、PTAに私は入りたくないと言う方に駄目と言えない。以前は、子ども会と一緒に学校に入ったらPTAに必ず入りPTA会費を払うため、会費で卒業記念品を全員一律に配布することができていた。しかし、PTAに入っていない子にはどうするのかという課題が出て、どうしていくかを考えないといけない。時代の変化と保護者の意識の変化もあり、みんながやっているからやらないといけないという感覚に左右されず、自立し、深く考える方が増えてきたからこそこのような現象が起きている。勝浦は、地域の子どもは自分たちの子どもという感覚・雰囲気が残っている。一方、福間南小は過ごしやすい地域で、自分たちがお金をかけてその環境を手に入れたという意識の方は多い。例を挙げると、公園で子どもたちが夕方遊んでいると、俺は15時に仕事を終えて帰り家で寝ているのに子どもの声がうるさい、何をやっているのかというクレームがある。公園でやっていいと決まっているサッカーをしていることに関して駄目だとは言えない。

他の例では、学童や学校等に対して、朝 8 時にしか校門を開けないが、保護者が 7 時半には家を出なきゃいけないから、7 時半に子どもを学校で預かってほしいと言われたことがある。保育園では時間外保育にするが、学校も工夫してすべきなのか断るべきか、その状況や地域の特性等も踏まえ、これから先は考えていくことになる。課題と要望が多様化し、学校で対応できることもできないこともある。子育てや地域の皆さんがより良い生活をしていくために、課題を受け止める窓口や、相談を聞く場所としての公の施設などの仕組みがラボの外側にもう 1 個あり、これは、地域団体の課題だからラボで対応しよう、これは子どもの不登校のことだから教育支援センターに相談を、という窓口の窓口があるといいと思う。そうすれば課題に応じて紹介が可能になる。その振り分けは近い将来 AI が実現するだろう。

●委員

1500 人規模の学校と 100 人以下の学校が両方ある自治体は、そもそも 1500 人を超える学校が日本に 10 校もないので珍しい。

●会長

中学校の不登校について、学校運営協議会で議題になっているが、先生方の対応や声掛けにも限界がある。アンビシャス、子ども会などがあるが、この居場所づくりは、私たち社会教育にできることかもしれない。

●副会長

前回の会議で、郷育推進会議の私達とラボは共通点もあるし、違うところもあるから、それぞれで繋がると良いところを見ながら繋がるといいですねと話をした。昭和の頃は、学校や家庭、地域はどこに行ってもほぼ同じという、悪く言えば同調圧力があつた。それぞれ共通なので、いろんなものを繋ぎやすかった。

しかし、多様な価値観、個人が大事にされる時代になり、一律で、どの組織をどう繋ぐという事ができない。もしやると誰かの不満が生まれるので、個人単位も含めて、繋がりたい人や活動ごとに考える方がいい。

社会教育は、公的に誰でも参加できる学習の機会を作ることである。一方で、ラボは個人のキャリアアップのための教育や教育ではない何か活動したい人を繋ぐ。繋げられるところと繋げにくいところをよく見ておかないと、誰かが我慢するなど負担がかかるようなことになりかねない。

例えば、婦人会の西郷川のあじさいの活動は、担う人が減少し世代交代という課題がある。文化協会も若い人が来てほしいという思いもある。福津市らしい繋ぎ方としては、やはり子どもが入るといいなと思う。教育と家庭外で、休みの日に子どもが保護者と一緒に気楽に参加できる活動に繋がれば、無理に学校と連携せずに、やりたい人が繋がる。でも、それを個人単位で行うのは難しい。なので、私の考えは、学校の教育課程に繋ぐやり方も、例えば、木本さんが関わるスタードーム作りなど教育活動として出来上がったものなら勧めやすいが、これから地域で子どもが学校外でどんなことができるか、今学校で考えられている。

例えば福岡東中も、地域を元気にするために私達ができることは何だろうと生徒が考え、いろんな方と議論しようという動きが活発になっている。例えば婦人会がこんな思いで活動されて、こんな課題があるがあなたたちはどう

思うかと中学生に投げかけると、それなら僕達の清掃活動と一緒にしませんかなどと言うきっかけになりそう。このような、出会って話す機会や場を作るのが良いし取り組みやすい。子どもが入ると子どもと一緒に子育て世代の保護者が来て、地域の方と交流が生まれると、やりたいと思った方は活動に入ってくれる。そうすると、今担っている方から子育て世帯の方、そして子どもに繋がる。うまく繋ぐためには、どの団体にどんなニーズがあるのか、学校も含めて考えながらモデル事業を動かすと、そこから、できないこともあるけどこれはやりたいねと広がっていくと思うので、そうやって緩やかに広げるのが良いと思う。例えば、文化協会の囲碁将棋の会もあるが、福間小の子どもたちが昼休みに地域の方に、一緒に将棋しませんかと誘うのも良いと思う。そこで関係性ができた子どもたちに、普段の活動を紹介すると、今度休みの日に行ってみたいという子は保護者と一緒に行くかもしれない。このようなことは、それぞれ自分の立場しか見えてないとどう繋がっていいかわからないため、アイディア出しをする場を作ることが大事と思う。

●会長

ラボに登録団体の分かりやすい表がある（資料参照）。社会教育の活動団体の見える化をしたらいいのではないかなと思う。文化協会にどんな団体がいて、いつどんな活動をしているのか、アンビシャスも学校毎に何曜日にどこで活動しているかを把握し、福津市の社会教育の活動の見える化をして、そこから繋げ、状況が変わればアップデートすると良い。公的なものですら私達が把握してない部分もあるので、分類して見える化が必要。市子連に所属している子ども会はまだ現存しており、市子連に繋がればこれも出来るという魅力を各地域の子ども会に伝えられれば良い。子ども会に入りたい理由が役員をやりたくないことと聞く。実際は相互扶助で、子どもたちはいろんなところで助けてもらっていて、地域の人たちと学校の役割はこれからすごく大きくなっていくと思う。

郷育カレッジのふくつ散歩という人気講座があるが、これは自分1人で行ってもよくわからない場所を、郷づくり地域の方が講師として色々と紹介することで見える化されるから、人気なのだと思う。

1度皆さんで、テーブルに活動内容を出してもらい、それを並べて地域別、時系列、年齢別にするなど社会教育の見える化をやってみたらどうかと思う。今年度は時間的に可能と思う。また、来年度委員は入れ替えになるが、このメンバーでここまで話をしてきた中で、去年福岡ブロックの研修を開催して他の自治体の社会教育委員との交流もあったので、自身の活動の外の世界みたいなのを見る機会があったと思う。何か、俯瞰して見るができるものを考えてみるのはどうか。

また、どの委員の話もすごく考えるきっかけをいただいているので各団体でフィードバックしてもらいたい。

それから、アンビシャスの活動は、神興、神興東は学校での活動が来年度からは難しくなると聞く。道具の置き場所の課題も出てくるのではないかな。

●委員

アンビシャスは遊ぶ所なので、おもちゃやブロックなどを持っている。活動場所は体育館で、道具は廊下の隅や外にキャビネットを置いていいと言われるが、雨ざらしである。置く場所だけは欲しい。

●会長

宮司のアンビシャスとかはコミセンの中に道具置き場があると思われる。何か悩みが出たときに、現況の見える化をされていたら困りごとが分かり、助け合いにつながる。

●委員

神興東は算数の先生用の定規を保管していた所を教室にしている。PTA 会議室や印刷室などを教室にせざるを得ない状況にはある。

●会長

福間中も会議室を自由に使えたが教室にせざるを得ず、今は使えない。それでも足りないという課題がある。

●委員

児童数の増加だけではなくて支援学級がどうしても必要な状況になっているが、子どもの状況に合わせた教育ができるので、それは悪いことではない。しかし、意識のアップデートについて、学校自体が教職員も含めて昭和からあまり変わってない部分がある。ダイナミックに変えるべき時期には来ているが教職員がそこに踏み込めないでいる。決まった時間割を行う教育だと、与えられたものだけを行う人間が育つ。困りごとがあるが、どうにか自分で打破しようという発想がついてない点が課題で、教育界全体でみても大きい課題。自分たちがやりたい問題解決学習を行うとか、やるべきことをプロジェクトとして行うような時間を増やしていく必要がある。それを行う学校・地域もあって、午前中 4 時間教科学習して給食後は、学びの部活動のような、例えば僕は料理を深めていく。そのためには婦人会の皆さんに料理を習いに行こうなど、また、囲碁とか将棋を極めたいという遊びだけではなくて、地域の環境についても小学生も考える。小学生なりに何かやることを今から少しずつ経験したら、20 年後大人になった今の子どもたちが、ラボをもっと使うのではないか。大人の育成を考えないといけない。これはモデル校区を作って学校主導でやるべきことだろう。学校からラボや活動団体に、子どもがこういうことをやりたいと話し、また、家族の夕食の話題にも出て親も興味を持つとよりいいと思う。

●会長

モデル事業は次世代教育推進協会がやっている催しの、社会教育版の体験フェスティバルのようなものをできればいいと思う。
学校のプログラムの中で行っていくことは何とかできるが、できれば予算をもらいたい、やれればというかやらないといけないと思う。

●委員

学校も同じようなモデル事業があつていいと思う。伝統的に福津で活動されてきたものを子どもたちは知らないので、一つのプロジェクトとしてこんなことを手伝ってほしいというきっかけを、学校の外の団体から持ってきてもらえればやりたいと声があがることもある。

広がっていくと、先ほどのあのアジサイを植える活動に関しても、やりたい子どもがいれば人手不足が解決し活動は継続する。

●委員

以前、福間中に、花屋から 200 本もらった苗を植えるのに手伝ってと、学校に呼びかけて生徒たちに来てもらったことがある。

●委員

スタートが、先生や関係保護者が困っているから手伝ってよって子どもたちは行って楽しいが、自分たちで発想していない。こんなことが行われているから僕たちに何かできないかと学校として仕組まないと、決められたことを行うだけの大人になる。

●会長

情報を提供することが相互にあるといいと思う。婦人会さんからアジサイ活動について外部に投げかけたり、中学校のボランティア部と繋げたりすることもできるのではと思う。

次回はラボ見学をして、こういうこともどうだろうか、こういう情報を聞いてみたいなどと次回お話いただきたい。

●副会長

次回ラボに行って、考える視点は二つあるかと思う。一つはそれぞれの立場でこんなことをやったらどうかという。例えば活動のアイデア。

それからもう一つは、私達のメンバーから、こんな活動をやったらどうですかと言うのは、やる人の主体性がない。けどいろいろな団体とかを知っている私達はこういうものがあるよって気付かせるような場を作りアイデアを出せると思う。そういう意味で、特に子どもたちが入ってくるような活動では、何かまさにきっかけのきっかけで、情報を共有する場としてラボが使えるのではと思う。例えば学校だったら総合的な学習の時間にオリエンテーションで地域の方、又は木本会長に話してもらったらどうか。子どもたちが活動内容を知るきっかけになる。

この二つの視点で何かお考えいただければと思う。課題意識や関心が委員さんはそれぞれ違うので、いろいろ出てくるだろう。考えを出し合い、課題を可視化できればと思う。

3. 報告事項 なし

4. その他 次回開催日：12月17日（火）18時30分から
福津市中央公民館内のキッカケラボにて

以上で終了